

令和2年度日本植物病理学会関西支部会のお知らせ

令和2年度関西支部会開催地委員長 木原淳一

令和2年度日本植物病理学会関西支部会を下記のとおり開催致します。今年度は、新型コロナウイルス感染症対応のため、オンライン（PDF ファイルの閲覧・掲示板による質疑応答）での開催となります。万障お繰り合わせの上、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

I. 会場と日程

- ・ 会場：オンライン会場<日本植物病理学会ホームページ内の関西支部会特設ページ：(株)ダイナコム>
- ・ 日程：令和2年11月7日（土）9:00～17:00 一般講演（今年度は、総会・情報交換会は行ないません。）
：令和2年11月8日（日）9:00～17:00 一般講演

II. 関西支部会開催地ホームページ

- ・ 開催に関する情報等は、下記の[関西支部会開催地ホームページ](http://kansaibukai.shimane-u.ac.jp)でご確認ください。

<http://kansaibukai.shimane-u.ac.jp>

III. 参加申込

- ・ 締切：令和2年9月10日（木）17:00
- ・ 参加費：一般 **3,000 円**（講演要旨予稿集1部を含む，9月11日以降は3,500円）
：学生 **2,000 円**（講演要旨予稿集1部を含む，9月11日以降は2,500円）
：講演要旨予稿集のみ1部 **1,500 円**
- ・ 要領：同封の郵便振替払込取扱票に必要事項を記入し、締切日までにご送金ください。郵便振替払込取扱票による送金をもって部会参加の申し込みと致します。整理の都合上、払込用紙は参加者1名ごとに1枚をお使いください。払込用紙をさらに必要とされる場合は、郵便局に備え付けの用紙をご利用ください。その場合、通信欄に住所・氏名・所属をご記入ください。講演要旨予稿集・領収書は通信欄に記載された情報を用いて開催日までに郵送いたしますので、通信欄の送り先情報は明確にご記入ください。
口座番号：01330-0-111277，加入者名：令和2年度日本植物病理学会関西支部会
（他行からの振込みをされる場合は、ゆうちょ銀行 店名：一三九店，当座，口座番号：0111277）
講演プログラムは10月下旬までに日本植物病理学会ホームページ及び関西支部会開催地ホームページにて公開します。

IV. 発表申込

- ・ 締 切：令和2年9月10日（木）17：00
- ・ 要 領：発表ができるのは日本植物病理学会会員（令和2年度会費納入者）で、1人1題のみとします。発表希望者は、次ページの「講演要旨原稿作成要領」に従って講演要旨原稿をMS Wordのファイルで作成し、ファイル名を「発表者氏名.docx」としたMS Wordファイルを、E-mail添付ファイルとして、本年度のプログラム担当メールアドレス（2020bukai-program@life.shimane-u.ac.jp）宛にご送付ください。E-mailの題名（件名）は、「要旨」＋「：」＋「発表者氏名」としてください。講演要旨様式テンプレートファイル（R2Kansai_form.dotx）は、日本植物病理学会ホームページ（研究集会（2020）—関西西部会）からダウンロードできます。原稿が正しく受け付けられた場合には、受け取りのメールを数日以内に送付者宛に返送しますが、届かない場合は正しく受け付けられていない可能性がありますので、下記のプログラム担当メールアドレスまでメールでお問い合わせください。「III. 参加申込」、及び、「講演要旨原稿の提出」をもって発表の申し込みと致します。なお、講演要旨は、座長等による審査の後に「日本植物病理学会報」に掲載されます。
プログラム担当メールアドレス：2020bukai-program@life.shimane-u.ac.jp

V. 発表の形式と参加要領

- ・ 発表形式：発表はパワーポイントファイルをPDF形式に変換したファイルの閲覧で行ないます（口頭発表は行ないません）。パワーポイントのページ設定は「画面に合わせる（4：3）」とし、通常の間頭発表（約10分）に相当する発表内容のページ数で作成したパワーポイントをPDF形式へ変換したファイルをご提出していただく予定です。発表を補助するため、必要に応じて、各スライドの下部に、数行の説明文（フォントサイズ12ポイント程度、フォントは任意）を入れていただきますよう、お願いします。なお、グラフ・写真の解像度は高くされなくても、通常のPCモニターで確認できれば問題ありません。PDFファイルサイズは**10MBまで**とさせていただきますが、ファイルサイズはなるべく小さくなるように、ご協力、よろしく願いいたします。発表用のPDFファイルの提出期限は、10月28日（水）を予定しております。**提出方法など詳細につきましては、後日、関西西部会開催地ホームページに掲載いたします。**
- ・ 参加要領：日本植物病理学会ホームページの関西西部会特設ページからログインをお願いします（ログインに必要なIDとパスワードは、別途、お知らせします。）。開催期間中は自由にPDFファイルを閲覧できます。PDFのダウンロードは不可となっておりますので、マナーを守って、閲覧ください。質疑応答は、発表演題ごとに掲示板を用いて行なう予定です。**詳細につきましては、後日、関西西部会開催地ホームページに掲載いたします。**

VI. 連絡先

- ・ 令和2年度関西西部会の各種お問い合わせ等は、関西西部会開催地事務局へお願いいたします。

令和2年度日本植物病理学会関西西部会開催地事務局

〒690-8504 島根県松江西市西川津町1060番地 島根大学生物資源科学部

TEL：0852-32-6520（木原淳一）、0852-32-6523（上野 誠）

FAX：0852-32-6597

E-mail：2020bukai@life.shimane-u.ac.jp

令和2年度関西西部会講演要旨原稿作成要領（昨年度と同じです）

※講演要旨様式テンプレートファイル（R2Kansai_form.dotx）が、日本植物病理学会ホームページ<研究集会(2020)―関西西部会（<http://www.ppsj.org/meeting.html>）>からダウンロードできます。

<全体の大きさ>

- ・和文講演者氏名から所属略称までが、縦73 mm，横161 mm の枠に収まるようにする。
- ・1つのファイルに収める講演要旨原稿は1つとすること。

<ページ設定>

- ・用紙サイズ：A4用紙，縦方向。
- ・余白：上 15 mm，下 30 mm，左 25 mm，右 25 mm。
- ・文字数と行数：「文字数と行数を指定する」を選択し，文字数50，字送り9 pt，行数51，行送り14 pt。

<配置>

両端揃え（所属略称のみ右端揃え）

<フォント>

- ・フォントサイズ：すべて9 pt。
- ・日本語用フォント：平成明朝またはMS明朝（但し和文題目のみ平成角ゴシックまたはMSゴシック）。
- ・英数字用フォント：Times New Roman. すべて半角。
- ・句読点：「，」「。」
- ・イタリック指定：題目，本文中とも，学名などイタリックにする必要があるものはすべてイタリックで表記。

<和文講演者氏名>

（1行）講演者が複数の場合は中点「・」で区切り，発表者名の前に丸印「○」をつける。所属が異なる場合には，上付き番号「¹」「²」で区別する。

<和文題目>

（2行以内）フォントは平成角ゴシックまたはMSゴシックとする。

<英文講演者名と英文題目>

（2行以内）氏名は，family name，first name initial，middle name initial の順に書き，initialの間にはスペースを空けない。講演者名と英文題目の間は，コロン「:」で区切る。

<本文>

9行以内で記載する。

<所属略称>

（1行）括弧「（）」に入れ，右端揃えとする。複数の場合は中点「・」で区切り，和文講演者氏名に対応させて上付き番号「¹」「²」をつける。

<講演要旨原稿の下に、以下の情報を記入>

- (1) 発表希望分野（「菌類病」、「細菌・ファイトプラズマ病」、「ウイルス・ウイロイド病」、「植物保護」の中から1つ選ぶ）
- (2) 発表内容（「分類・同定」、「検出・診断」、「病原体の性状」、「発生生態」、「感染生理」、「病原性・抵抗性」、「防除薬剤・薬剤耐性」、「生物防除・防除法」、「その他」の中から1つ選ぶ）
- (3) 対象植物（和名または学名で示す）
- (4) 対象微生物（和名または学名で示す）
- (5) 原稿送付者の氏名
- (6) 原稿送付者のE-mailアドレス
- (7) 発表者の学会会員番号（会員番号は封筒の宛名シールに記載されています。令和2年度会費未納の方は、至急会費をお支払いください。）

講演要旨原稿の例（本文は9行以内を厳守!）

○田村朋子¹・新里尚也²・伊藤通浩²・木原淳一¹・上野 誠^{1,2}

沖縄微生物ライブラリーを利用したイネいもち病の抑制について (5)

Tamura, T., Shinzato, N., Ito, M., Kihara, J. and Ueno, M.: Control of rice blast disease caused by *Magnaporthe oryzae* using Okinawa microbial library (5).

沖縄微生物ライブラリーには、亜熱帯地域である沖縄県内の島々で分離された微生物が保存されている。我々はこれまでに、沖縄微生物ライブラリーに保存されている微生物（3-45 菌株）の菌体抽出液中に、イネいもち病菌の付着器を拡大させ、メラニン化を抑制することで、イネへ感染を阻害する物質が存在することを明らかにした。そこで、菌体抽出液中に生産される物質の分離を試みた。まず薄層クロマトグラフィー（TLC）を用いて、イソブロパノール：アンモニア水：水（9:1:2）で展開後、TLCからの再抽出により、菌体抽出液の分離を行った。その結果、Rf値0.25~0.50において、付着器拡大活性とメラニン化抑制が確認された。また、TLCでの呈色反応を用いた解析により、糖や脂質を示す陽性反応が同様のRf値（0.24~0.41）で検出された。現在、付着器の拡大やメラニン化の抑制に関わる物質の同定とその作用機構について調査中である。

（¹島根大生資・²琉球大熱生研）

- (1) 菌類病
- (2) その他
- (3) イネ
- (4) *Magnaporthe oryzae*
- (5) 田村朋子
- (6) xxxxxxx@life.shimane-u.ac.jp
- (7) 183xxxx